

## 2013年度 教育課程論Ⅱ Ⅱ. 学力評価とカリキュラム設計 (教育課程)

2013年10月23日  
京都大学 西岡加名恵

## Ⅱ. 学力評価とカリキュラム設計

- 教育評価の基本用語 ……10月16日  
パフォーマンス評価とは何か
- カリキュラムの「逆向き設計」 ……10月23日  
～パフォーマンス課題、ルーブリックなど
- 学力評価計画の立て方 ……10月30日  
ポートフォリオ評価法
- パフォーマンス課題の作り方 →課題B  
学力評価計画の立て方 →課題C  
ポートフォリオの設計 →課題D(あ)

2

### ■前回の復習

「目標に準拠した  
評価」の意義



パフォーマンス  
課題

- 指導の前に、目標を明確にする
- 目標と照らし合わせて評価する
- 指導を改善する
- すべての子どもに学力を保障する
- 子どもたちの学習意欲が増す
- 「思考力・判断力・表現力」の目標が設定できる。
- 子どもの実演や作品を見て実態を把握し、指導を改善することで、すべての子どもの学力向上につながる。
- 子どもたちに学習の意義がわかる。

### ◎前回参加した人:「日々の記録」④

- パフォーマンス課題を用いた場合の「目標に準拠した評価」の意義は何ですか? 文章で説明してください。
- パフォーマンス課題に関して、疑問に思ったことは何ですか? 疑問文の形で書いてください。  
※2～3人で、一枚ポートフォリオを交換して、上記が書けていれば、赤で日付の所に○をしてください(○をした人の名前も書いておいてください)。また、「なるほど」と思ったところの下に直線を、「そうかな?」と疑問に思ったところに波線を引いてください。  
※一枚ポートフォリオを返し、一言、コメントを返してあげてください。

### ◎前回欠席した人

- 前回の配布資料を受け取って、目を通してください。

4

### ◎「日々の記録」⑤

- パフォーマンス課題に関して、前回書いた疑問に対する回答を書いてください。(前回欠席した人は、パフォーマンス課題の定義と意義を、述べてください。)
- パフォーマンス課題を有効に用いるための条件について、述べてください。

5

## 4. パフォーマンス評価の普及 (1) 初等中等教育政策

- 1998年改訂学習指導要領  
「総合的な学習の時間」の導入  
→ポートフォリオ評価法の普及  
(教育政策文書において、文言は登場せず)
- 「学習指導要領解説 総合的な学習の時間」(2008年)、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(2010年3月24日)  
→ポートフォリオ、パフォーマンス評価を推奨
- 育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会、中央教育審議会高大接続特別部会・高等学校教育部会など

6

## ◎「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」

(2012年12月～)

### 2. 主な検討の視点等について

#### (1) 育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容の構造について

- 各種の資質・能力概念の内容について
  - ・法令上定められている教育の目的・目標について
  - ・これまで提唱された様々な資質・能力の内容等について
  - ・これからの時代に求められる資質・能力として、初等中等教育段階において重視すべき内容と構造について

- 教育目標・内容の構造の再構築の可能性や具体的なイメージについて
  - ・教育目標の明確化・体系化と教育内容（教科横断的な内容と各教科等における内容等）との関係について
  - ・育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容の構造を可視化する方策について

#### (2) 教育目標、指導内容、学習評価を一体的に捉えた教育課程の在り方について

- 最近の教育課程編成や教育評価の理論と実践について
  - ・「パフォーマンス評価」「ルーブリック」「ポートフォリオ評価」等について
  - ・これらの理論と実践に関する成果と課題について
  - ・学習評価を見通した教育目標・指導内容の在り方について
- 教育目標として示すべき内容、示し方、測定の方法について
  - ・教育目標として示すべき項目の具体的な内容について
  - ・教育目標の表現方法などの示し方について
  - ・教育目標として示した項目の達成状況の把握・評価の方法について

([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/095/index.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/095/index.htm))

## CF. <新しい能力>概念の登場

### 【初等・中等教育】

- 文部科学省：「生きる力」(1996)
- 内閣府：人間力(2003)
- OECD - DeSeCo：「キー・コンピテンシー」(2003)
- OECD - PISA：「読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシー」(2004)
- 新学習指導要領：知識・技能を活用する「思考力・判断力・表現力等」(2008)

「学力」と「実力」の狭間  
(石井英寛「おわりに」西岡加名恵他  
『教職実践演習ワークブック——ポートフォリオで  
教師力アップ』ミネルヴァ書房、2013年)

### 【高等教育・職業教育】

- 厚生労働省：就職基礎能力(2004)
- 経済産業省：社会人基礎力(2006)
- 文部科学省：学士力(2008)

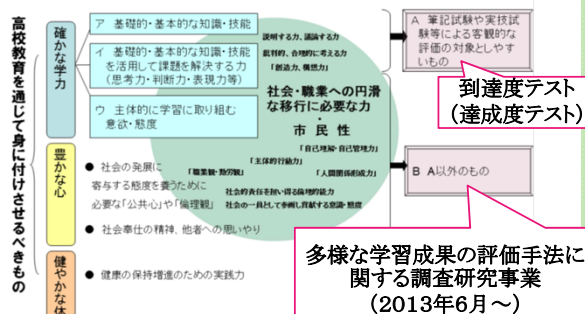
### 【労働政策】

- 日本経営者団体連盟(日経連)：エンプロイアビリティ(雇用されうる能力)(1999)

(松下佳代「<新しい能力>概念と教育——その背景と系譜」同編著『<新しい能力>は教育を変えるか——学力・リテラシー・コンピテンシー』ミネルヴァ書房、2010年)

## ◎「初等中等教育分科会高等学校教育部分の審議の経過について」(2013年1月28日)

### 「コア」の要素を含む資質・能力(イメージ)



## (2) 高等教育政策

- 中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて(答申)」(2008年12月24日)

### 【大学に期待される取り組み】

- 学生が、自らの学習成果の達成状況について整理・点検するとともに、これを大学が活用し、多面的に評価する仕組み(いわゆる学習ポートフォリオ)の導入と活用を検討する。(p.27)
- 授業改善に向けた様々な努力や成果を適切に評価する観点から、教員が教育業績の記録を整理・活用する仕組み(いわゆるティーチング・ポートフォリオ)の導入・活用を積極的に検討する。(p.43)

10

## (3) 看護教育政策

- 文部科学省「看護学教育の在り方に関する検討会(第4回)」(2003年12月4日)

([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/018-5/siryou/03121601.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018-5/siryou/03121601.htm))

→資料5に「パフォーマンス評価」という用語

- 厚生労働省「看護教育の内容と方法に関する検討会報告書」(2011年2月28日)

(<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001310q.html>)

「従来の看護の領域別に行う臨地実習ではなく、対象者の健康状態や特性、病棟又は施設などの看護実践の場を弾力的に組み合わせて実習を行う場合は、学生がどのような対象者に関わり、どのような学びをしたかを、教師と学生双方が共通に認識できるようにする必要がある。そのためには、体験した内容や獲得した能力を記載したもの(ポートフォリオなど)を活用することが効果的である。このような学習の記録により、教育内容が網羅された効果的な臨地実習を行うことが可能となる。」

## (4) 学校現場における開発・普及

### ◎「逆向き設計」論

求められている結果(目標)を明確にする

修了時をイメージする

承認できる証拠(評価方法)を決定する

指導の前に評価方法を計画する

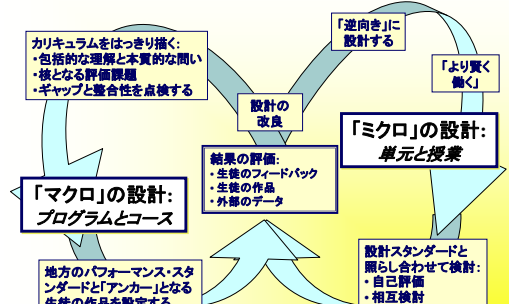
学習経験と指導を計画する

(Wiggins, G. & McTighe, J., *Understanding by Design*, ASCD, 1998/2005, G・ウィギンズ&J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらしカリキュラム設計』日本標準、2012年)

12

## ◎「ミクロな設計」と「マクロな設計」

## 「逆向き設計」: ミクロとマクロ



(Wiggins, G. & McTighe, J., *Understanding by Design*: 111 Overview 2002, PowerPoint Slides, 2002, p.111)

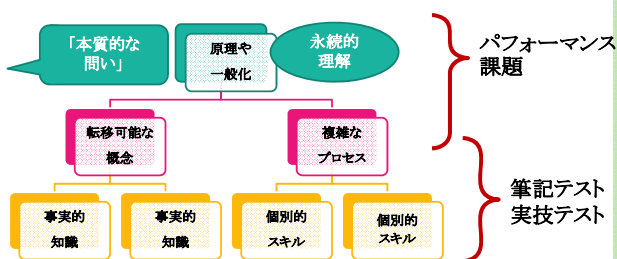
13

## 5. パフォーマンス課題を作る

## (1) パフォーマンス課題づくりの手順

- ① 単元の中核に位置する重点目標に見当をつける。
- ② 「本質的な問い」を明確にする。
- ③ その問いに対してどのようなレベルの答えに達してほしいか(「原理や一般化」についての「永続的理解」)を明文化する。
- ④ パフォーマンス課題のシナリオを作る。  
(目的、役割、相手、状況、パフォーマンス、評価規準)

## (2) 「知の構造」



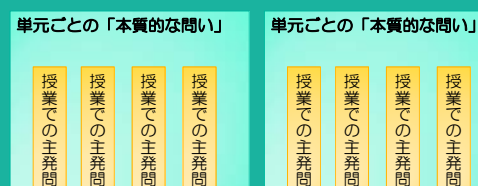
(McTighe, J. & Wiggins, G., *Understanding by Design: Professional Development Workbook*, ASCD, 2004, p.65の図や, Erickson, H.L., *Stirring the Head, Heart, and Soul*, 3rd Ed. Corwin Press, 2008, p.31の図をもとに作成。G・ウィギンズ/J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらしカリキュラム設計——「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012年参照)

15

## (3) 「本質的な問い」の入れ子構造

- ◆ 方法論の問い
- ◆ 概念理解の問い

## 包括的な「本質的な問い」



16

## (4) パフォーマンス課題づくりの例

- 横浜国立大学教育人間科学部附属中学校(当時)
- 三藤あさみ先生
- 中学校2年生
- 社会科  
(歴史的分野)



(三藤あさみ・西岡加名恵『パフォーマンス評価にどう取り組むか』日本標準、2010年)

17

## ①「本質的な問い」

◎時代が変わるとはどういうことか。社会を変えるのは何か。どのように変えていくことが、民主的で平和な国家・社会をつくりあげることになるのか。

○明治維新によって、日本社会はどのように変化したのか。明治維新後の日本において、人々が幸福で平和に暮らせる社会を築くには、どうすればよかったのか。

(三藤あさみ先生提供)



## ②永続的理解

明治維新という政治改革の背景には、欧米における市民革命、産業革命とアジアへの進出からの影響、貨幣経済発展を想定していない幕藩体制や年貢制度の矛盾など国内外の様々な要因があった。

また日本が近代国家として国際的地位を向上するために、積極的に欧米文化を摂取し、廃藩置県、富国強兵政策、殖産興業、地租改正、学制の公布など様々な改革を行った。その結果工業のめざましい発展や身分制度の廃止、民主政治の発展など正の側面がみられた反面、公害や労働問題の発生、帝国主義萌芽による大陸進出など負の側面もあらわれた。

(三藤あさみ先生提供)

## ③パフォーマンス課題

「明治時代の新聞の社説」→資料2①②

時は1900年。あなたは明治時代の新聞社の社員たちであり、社会が大きく変化してきた明治維新を記念する社説を書くことになりました。社説は、当時を生きる人々(政治家、産業界の人々、文化人、一般の人々)に向けた新聞社からのメッセージです。

話し合いの内容や今までの学習を振り返り、今後の改革のあり方について重要だと考えることを提案してください。

(三藤あさみ先生提供)

## 6. ルーブリック作りから指導の改善へ

### (1) ルーブリック

(ここではレベル2・4を省略)

|   | 原理・一般化に関する  | 観点<br>(分けなくても可) | 記述語<br>(標準と徴候) | アンカー<br>作品 |
|---|---|-----------------|----------------|------------|
| 5 | 社会的な事象について、政治・経済・文化・社会などの構成要素から3つ以上の観点から分析し、最適で詳細かつ具体的な根拠をあげて、非常に説得力のある論述を行うことができる。 |                 |                |            |
| 3 | 社会的な事象について、政治・経済・文化・社会などの構成要素から2つ以上の観点から分析し、最適で詳細かつ具体的な根拠をあげて明確な主張を述べることができる。       |                 |                |            |
| 1 | 社会的な事象について、政治・経済・文化・社会などの構成要素から1つ以上の観点から分析し、最適で詳細かつ具体的な根拠をあげて明確な主張を述べることができる。       |                 |                |            |

### (2) 特定課題ルーブリック 作成用テンプレート

| 尺度         | 作品NO | 記述語                             |
|------------|------|---------------------------------|
| 5<br>素晴らしい |      | ◆全体的ルーブリック<br>または観点別ルーブリック      |
| 4<br>良い    |      |                                 |
| 3<br>合格    |      |                                 |
| 2<br>もう一歩  |      | まず、作品NOの配置<br>を確定する。<br>→アンカー作品 |
| 1<br>がんばろう |      |                                 |

### (3) 特定課題ルーブリックの作り方

- ①お互いの採点がわからないように、作品を採点する。



23

- ②似た評点がついた作品を集め、特徴について話し合う。



24

◎「明治時代の新聞の社説」の場合・・・

25

#### (4)指導の改善へ

**Q. どのような改善がありうるか？**

26

◎課題「国際シンポジウムで提案しよう！」

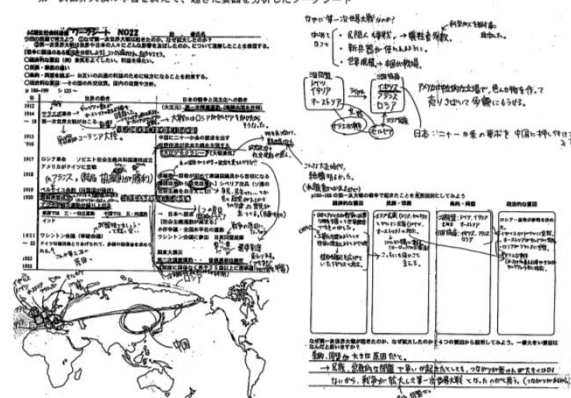
- 「あなたは、平和を守るための調査や研究をしている政治学者です。ところが……第一次世界大戦、第二次世界大戦と規模が大きく犠牲者も多く出た戦争が二度にわたり起きたため、世界に向けて「なぜ戦争が起きるのか？ どうすれば戦争が防げるのか？」について提言するレポートを作成することになりました。[模擬]『国際シンポジウム』で意見交換したうえで、提言レポートをB4用紙一枚にまとめてください。」

(三藤あさみ・西岡加名恵『パフォーマンス評価にどう取り組むか』  
日本標準、2010年、p.23)

27

◎ワークシート(三藤あさみ先生提供)

第一次世界大戦の学習を終えて、記きた要因を分析したワークシート



8

◎授業の様子 →資料2③  
「模擬国際シンポジウム」



(三藤あさみ先生提供)

### (5) 長期的ループブリック

→資料2④

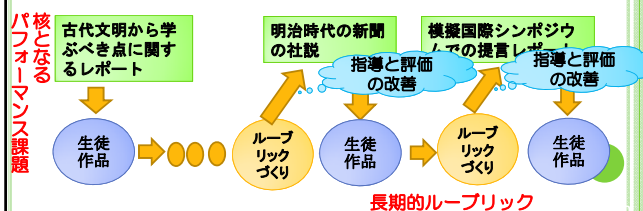
## 「本質的な問い」の入れ子構造

中学校社会（歴史）：社会はどのような要因で変わっていくのか。どのように社会を変えていけばいいのか。

文明はなぜ生まれるのか。この時代の日本は他の文明から何を学ぶべきか。

明治維新によって日本社会はどのように変化したのか。明治維新後の日本において人々が幸福で平和に暮らせる社会を築くには、どうすればよかったのか。

戦争はなぜ起こるのか。戦争を起こさない平和な国を保つためにはどうしたらよいのか。



## (6) 予備的なルーブリックの作り方

### ◎その1

- ① 4段階の観点別ルーブリックのテンプレートを  
用意する。
- ② 評価の観点を考える。  
「素晴らしい\_\_\_\_\_の条件は何か」
- ③ 重要な観点(4~6個)に絞る。
- ④ それぞれの評価の観点に対応する記述語を書く。

| 効果の程度                                  | 頻度の程度                                   | 独立の程度   |
|--|---|---|
| 非常に効果的<br>かなり効果的<br>いくらか効果的<br>効果的ではない | 常に、継続的に<br>頻繁に、一般的に<br>時々、時に<br>めったに~ない | 独立して<br>最小限の支援のもとで<br>いくらかの支援を必要<br>としつつ<br>かなりの支援を必要と<br>しつつ |

31

## テンプレート

教科: \_\_\_\_\_ 学年: \_\_\_\_\_ 課題名: \_\_\_\_\_

| 観点→<br>↓ 尺度 |  |  |  |  |
|-------------|--|--|--|--|
| 重みづけ        |  |  |  |  |
| 4           |  |  |  |  |
| 3           |  |  |  |  |
| 2           |  |  |  |  |
| 1           |  |  |  |  |

32

### ◎その2

- ① 3段階の「全体的ルーブリック」のテンプレートを  
用意する。
- ② それぞれのレベルの記述語を書く。
  - 評点1: 単元を始める時点で見られるであろう、  
子どもの実態はどのようなものか?
  - 評点2: 単元の最後までに全員に到達させたい  
状態は、どのようなものか?
  - 評点3: 単元の最後までに到達しうるであろう、  
理想的な状態はどのようなものか?
- ③ 必要ならば、観点別に整理する。

33

## テンプレート

教科: \_\_\_\_\_ 学年: \_\_\_\_\_ 課題名: \_\_\_\_\_

| 尺度<br>(評点、レベル)      | 記述語<br>(パフォーマンスの特徴) |
|---------------------|---------------------|
| 3<br>理想的            |                     |
| 2<br>合格             |                     |
| 1<br>乗り越えさせ<br>たい実態 |                     |

34

## (7) 学校単位での取組みの進展

|                               | 教師たちの行った課題   |
|-------------------------------|--|
| 2005<br>年度                    | 各教科の代表教師が、パフォーマンス課題を少なくとも一つ作って、指導に取り入れてみる。                                   |
| 2006<br>年度                    | 教科会で協力してパフォーマンス課題づくりを行うとともに、モデル作品づくりをしてみて、指導の改善に役立てる。                        |
| 2007<br>年度<br>・<br>2008<br>年度 | 各教科会において、パフォーマンス課題に取り組んだ生徒たちが生み出した作品にもとづいてルーブリック作りを行う。また、それを踏まえてカリキュラム改善を図る。 |

35

北原琢也『「特色ある学校づくり」とカリキュラム・マネジメント  
——京都市立衣笠中学校の教育改革——』三学出版、2006年

## ◎ルーブリック作りの研修の様子



(京都市立衣笠中学校提供)

36



## 7. 高等学校の実践例

### (1) 英語科のパフォーマンス課題

#### ◎TRAVEL AROUND THE WORLD



(京都府立園部高等学校 廣瀬格先生提供)

37

#### ◎「自分の好きな名画紹介」



(京都府立園部高等学校 光木宏先生提供)

38

#### ◎発表に向けて練習する生徒たち

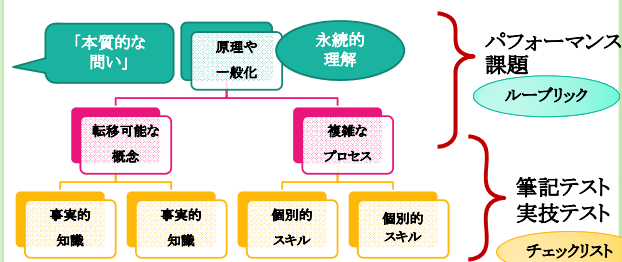


(京都府立園部高等学校・英語科提供)

39

### (2) 評価基準

#### ◎「知の構造」と評価基準



(McTighe, J. & Wiggins, G., *Understanding by Design: Professional Development Workbook*, ASCD, 2004, p.65の図や、Erickson, H.L., *Stirring the Head, Heart, and Soul*, 3rd Ed. Corwin Press, 2008, p.31の図をもとに作成。G・ウィギンズ/J・マクタイ、西岡加名恵訳『理解をもたらしカリキュラム設計——「逆向き設計」の理論と方法』日本標準、2012年も参照)

40

#### ◎評価基準の例

→資料3①

長期的ルーブリック

チェックリスト

(京都府立  
園部高等学校  
英語科提供)

### (3) 他校への広がり

○京都府立東舞鶴高等学校・英語科

パフォーマンス課題

「忍足亜希子さんへのメッセージ」(高校1年生)

自分の転機となったことを振り返り、そこから得たことを、忍足さんへのメッセージとして発表してください。  
(大槻裕代先生提供)



※動画: 国際文化コースの1人の生徒の変化  
普通科旧I類の2年次よりの選択コース。

42

#### (4) 指導案の例

→資料3②

長期的ルーブリックからの引用→

「本質的な問い」「永続的理解」とパフォーマンス課題↓

知識・技能と筆記テスト・実技テスト↓

(京都府立園部高等学校 竹村有紀子先生提供)

#### (5) 文型(S+Vなど)の指導



(京都府立園部高等学校 英語科  
左上: 赤松健先生提供  
左下: 田中容子先生提供  
右: 細井基延先生提供)

44

#### (6) 年間指導計画の例 →資料3③

| 学年 | 学期 | 単元    | 学習目標                                    | 指導計画                                    | 評価方法                                    |
|----|----|-------|---|---|---|
| 1  | 1  | 英語の基礎 | 英語の基礎知識・技能を身に付け、英語の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 | 英語の基礎知識・技能を身に付け、英語の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 | 英語の基礎知識・技能を身に付け、英語の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 |
| 1  | 2  | 英語の基礎 | 英語の基礎知識・技能を身に付け、英語の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 | 英語の基礎知識・技能を身に付け、英語の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 | 英語の基礎知識・技能を身に付け、英語の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 |
| 2  | 1  | 英語の基礎 | 英語の基礎知識・技能を身に付け、英語の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 | 英語の基礎知識・技能を身に付け、英語の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 | 英語の基礎知識・技能を身に付け、英語の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 |
| 2  | 2  | 英語の基礎 | 英語の基礎知識・技能を身に付け、英語の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 | 英語の基礎知識・技能を身に付け、英語の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 | 英語の基礎知識・技能を身に付け、英語の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 |

(京都府立園部高等学校 坂上渉先生・永井妙子先生・田中容子先生提供)

#### (7) 他教科との連携 「課題研究レポート」

レポートの書き方  
国語

研究の視点  
社会: 人権、民族など  
理科: 植生、ガス灯など  
音楽: 民族音楽など

研修旅行  
・北海道  
・シンガポール、マレーシア

課題研究レポート: 国語

発表: 日本語・英語

(京都府立園部高等学校提供)

46

#### (8) 他教科への広がり(数学科の例)

→資料3④

【数学科】アセスメントグリッド(到達目標)

| 観点 | 数学科の<br>核心・意図・態度                              | 数学科の<br>能力・考え方                            | 数学科の<br>知識・技能                             | 数学科の<br>態度・意図・態度                          |
|----|---|---|---|---|
| 基礎 | 数学科の<br>基礎知識・技能を身に付け、数学科の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 | 数学科の基礎知識・技能を身に付け、数学科の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 | 数学科の基礎知識・技能を身に付け、数学科の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 | 数学科の基礎知識・技能を身に付け、数学科の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 |
| 発展 | 数学科の基礎知識・技能を身に付け、数学科の基礎的なコミュニケーション能力を高める。     | 数学科の基礎知識・技能を身に付け、数学科の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 | 数学科の基礎知識・技能を身に付け、数学科の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 | 数学科の基礎知識・技能を身に付け、数学科の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 |
| 応用 | 数学科の基礎知識・技能を身に付け、数学科の基礎的なコミュニケーション能力を高める。     | 数学科の基礎知識・技能を身に付け、数学科の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 | 数学科の基礎知識・技能を身に付け、数学科の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 | 数学科の基礎知識・技能を身に付け、数学科の基礎的なコミュニケーション能力を高める。 |

(京都府立園部高等学校・数学科提供)

47

#### ◎「日々の記録」⑤

○パフォーマンス課題に関して、前回書いた疑問に対する回答を書いてください。  
(前回欠席した人は、パフォーマンス課題の定義と意義を、述べてください。)

→解消されていない疑問点について、  
ご質問をどうぞ！

○パフォーマンス課題を有効に用いるための条件について、述べてください。

48